

所属 法学部 職名 教授氏名 李林静

< 研修概要 >

1. はじめに

2021年9月1日から2023年8月31日まで、中国上海外国語大学語言研究院の趙蓉暉教授に受け入れ先を提供していただき、また、2023年8月4日から8月31日まで東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所にて、「ヘジェン語のドキュメンテーション及び文法記述研究」というテーマで研究をおこなった。

本研究の目的は、ヘジェン語を対象に、①フィールド調査によって得られた音声・映像資料をもとにヘジェン語の形態・統語構造をより詳細に記述し、文法スケッチを完成すること、②ヘジェン語のドキュメンテーションを行い、得られた音声・映像資料を文字化し、文法情報を付して成果を刊行し、今後の歴史言語学的研究および言語類型論的研究のデータとして利用可能な形に整えることである。

研修者は2001年から2019年まで、(2006年と2016年を除き)ほぼ毎年中国黒龍江省同江市及び街津口郷にて、ヘジェン語のフィールド調査を行い、その文法記述とドキュメンテーション(包括的な資料の記録・保存・文字化・分析・刊行)を行ってきた。ツングース諸語に属するヘジェン語は、次世代への受け継ぎが断絶し、流暢な母語話者は研修者が研究を始めた当初の20数名からわずか2名となっている。これまでのドキュメンテーション研究では、2人の話者による日常会話に重点を置き、音声・映像資料を収集、分析、刊行してきた。本研修のメインな目的は中国滞在中に数回フィールドワークに赴き、2人の話者(77歳、84歳)が存命中に自然談話の音声・映像資料を採録することにあった。

2. 研修1年目

中国では2022年12月まで3年近くゼロコロナ政策が実施され、スーパー、デパートなどの公共商業施設、バス、鉄道などの公共交通機関を利用する際に、新型コロナにかかっていないと証明する緑の健康コードを警備員に提示しなければならなかった。新型コロナ感染者や1次濃厚接触者などは、ホテルで1~2週間集中隔離されるなどの感染対策も徹底的に施されていた。このような政策のもとで、長距離移動は困難を極め、その上で、人と人との接触自体が厳しく制限され、そのため、最初の1年間は、フィールドワークの実施を断念せざるを得なかった。

そこで、研修1年目は、(1)ドキュメンテーション研究をメインに行い、(2)オンライン研究会にも積極的に参加するに決めた。具体的には以下の通りである。

(1)ドキュメンテーション研究

①データの電子化

2002年-2019年のフィールドノート計33冊を整理し、ページ数をナンバリングした上、アナログ資料を専門業者の協力を得て、JEPG形式及びPDF形式のデジタルデータに変換することができた。また、2002年-2008年に収録された映像資料を整理し、miniDV90分以下19本、miniDV120分以下3本をMP4形式のデジタルデータに変換することができた。

②データの聞き起こし・文法分析

2019年8月に収録した、尤文蘭氏によるヘジェン語の語りを聞き起こし、文法情報（グロス）・日本語訳・中国語訳を付し公表した（後掲成果①）。また、3年ぶりに実施するヘジェン語のフィールドワークの準備も進めていた。

(2)オンライン研究会への参加

①千葉大学ユーラシア言語文化講座により、定期的に行われる言語学サロンに毎回オンラインで参加した。②これまで時差やオンライン会議ツールの制限などがあり、中国で行われるオンライン研究会に参加しにくいなどの問題があった。中国本土に滞在できることにより、これらの問題が解消され、中国各大学で行われる研究会（テンスント会議）に容易に参加することができ、中国における少数民族言語の研究動向を覗き、知見を広げることができた。

3. ヘジェン語のフィールドワーク

2022年8月27日から9月19日にかけてようやく見合わせていたヘジェン語のフィールドワークを実施することができた。航空便、新幹線、長距離バスに乗り継ぎながらの中国国内における大移動であったため、常に降り立った先でホテルに隔離されないかの心配はあったものの、現場の人々の柔軟な対応のおかげで種々のハプニングを乗り越えて調査を無事遂行することができた。少数言語の研究においては、フィールド調査の方法論自体が重要なテーマである上、災害時等の異常環境下での調査方法についての先行研究は皆無に近かったことから、ゼロコロナ政策下のフィールドワークという貴重な経験を論文にまとめて公表することができたのは大きな収穫となった（後掲成果②）。また、二人の話者の自然談話や一人の話者による語りの音声・映像資料を収集することができ、文法情報（グロス）・日本語訳・中国語訳を付し公表することができた（後掲成果③）。そのほか、フィールド先滞在中に現地の漁師とともに未明からモーターボートに乗りアムール川での漁に同行し記録することができた。漁の過程について一人の話者にヘジェン語で語ってもらい、現在その成果をまとめている段階である。

2023年6月8日から6月17日まで2回目のヘジェン語のフィールドワークを実施した。これまでの22年間、トウモロコシが実る8月の下旬から9月の中旬にかけてフィールドワークを実施することが多かったが、今回はトウモロコシはまだ苗状態にある一味違う初夏の風景を目に焼き付けることができた。二人の話者とも体調不良で

ヘジェン語自体の調査はできなかったものの、当該言語の最新の使用実態について確認することができた。2022年8月の調査で記録した二人の自然談話はヘジェン語による最後の自然談話となるかもしれない。黒龍江省同江市にてヘジェン語のフィールドワークを終えた後、昆明にある雲南民族大学に向かい、「ヘジェン語のフィールドワーク」について報告を行った（後掲成果⑤）。

4. 教育面における収穫

上海外国語大学の客員研究員カードを発行してもらうことができ、キャンパス内で学食、図書館などを自由に利用できた。教育面における大きな収穫は、上海外国語大学言語研究院にて開講された講義「世界言語概論」（趙蓉暉先生）に1学期参加することができ、日本文化経済学院にて「1年次日本語精読」（曾婧先生）、同大学国際文化交流学院にて留学生向けの「初級中国語」（宋晨先生）、「中級中国語」（馬喬先生）、「上級中国語」（徐吉先生）などの授業を見学できたことが挙げられる。2023年4月より、研修者は中級中国語の教科書の執筆を開始し、これらの授業の見学は中国語教科書編纂作業にとっても参考になり、有益であった。

研修の終了にあたって、研究、生活面の相談に乗っていただいた上海外国語大学言語研究院の趙蓉暉教授、授業見学を斡旋して下さった同大学日本文化経済学学院毛文偉教授、国際文化交流学院鹿欽佺准教授に深く感謝申し上げたい。雲南民族大学での講演の機会、そして雲南の少数民族の方々と触れる貴重な機会を設けて下さった雲南民族大学の安英姫准教授にも合わせて感謝申し上げる。また、貴重な長期研修機会を与えて下さった成蹊大学、研究生活をサポートして下さった法学部の同僚たちに心より御礼申し上げる。

なお、研修中の研究成果は以下の通りである。

論文など

- ①李林静（2021）「ヘジェン語の語りテキスト(20)－尤文蘭氏口述 ノロジカの寄生虫について－」（『千葉大学ユーラシア言語文化論』23：113-142，千葉大学ユーラシア言語文化講座，2021年12月）
- ②李林静（2022）「中国ゼロコロナ政策下における海外研修及びフィールドワーク」（『千葉大学ユーラシア言語文化論』24：125-176，千葉大学ユーラシア言語文化講座，2022年12月）
- ③李林静（2023）「ヘジェン語テキスト(21)－何淑珍氏、尤文蘭氏による自然談話－」（『北方言語研究』13:257-281，日本北方言語学会，2023年3月）

講演

- ④李林静（2022）「日本における中国語教育とヘジェン語研究」北京科技大学にて（オンライン 2022年4月14日 使用言語：日本語）
- ⑤李林静（2023）「日本における少数言語研究及びヘジェン語のフィールドワーク」雲南民族大学にて（2023年6月20日 使用言語：中国語）